

せいあん 一やしなヒ いちびようヲ みづから トシ ヨ
齊奄家 畜 二猫 一、自 奇レ之、

ごうシテ 二 一 フ こびようト
号 二於人 一曰二虎猫 一。

齊奄は家で一匹の猫を飼っており、自分でこの猫を普通ではなく優れていると評価し、「虎猫」と呼んで人々に言いふらした。

かくとキテ 二 ハク ハ 二もうナルモ ル シカ のしんナルニ なり
客説レ之曰、「虎誠猛、不レ如二龍之神 一也。

(ある) 客が齊奄に説得しようとして言うには「虎は確かに勇猛だが、龍の神聖さには及ばない。

こつかへ ヨ ハンコトヲ りゅうびようト
請更レ名曰 二龍猫 一。

どうか猫の名前を『龍猫』に変更して呼んでくだされ」と。

キテ 二 ハク ハもとヨリ しんナル とらヨリ なり
又客説レ之曰、「龍固^a神 二於虎 一也。

また、(他の) 客が齊奄に説得しようとして言うには「龍はもともと、虎よりも神聖である。

ルニ 二 ちちフレバ ふうんヲ それたふとキ ヨリ か
龍昇^bレ天 須 二浮雲 一、雲其尚 二於龍 一乎。

龍は天に昇るにあたって浮雲を必要とするので、雲があるいは龍よりも尊いのではないか。

ト カ ツケテ フニ くもト
不レ如二名 一曰「雲」。

『雲』と名付けて呼ぶ方が良い。」と。

キテ 二 ハク うんあいおほフモ ヨ たちまちニシテさんズ ヨ
又客説レ之曰、「雲靄蔽^cレ天、風倏 散レ之。

また、(他の) 客が齊奄に説得しようとして言うには「雲やもちは天を覆うけれども、風はあっという間に、その雲を散らせる。

雲ヨリ固ル不レ敵かなハ風ニ也なり。請フ更かへ名ヨ曰ハンコトヲ「風かせト」。

雲はもともと風に敵わないのである。

どうぞ『風』に変更して呼んでください。」と。

又客説キテ之ニ曰ハク、

また、(他の)客が斉奄に説得しようとして言うには、

「大風たいふうへうきスルモ飆た起タ、維屏た以タレ牆セグニ、斯テ足セバレ蔽しゃうヲ矣すなはチ。レリ

「大風は猛威を振るうけれども、わずかに塀で防ぎさえすれば、それで大風から守ることができる。」

風其如しいかレ牆何ヨんセン。

風はいつたい塀を吹き飛ばすだろうか、いや、吹き飛ばさない。

名ツケテレ之ニ曰ハバ「鼠猫しょうびようト」可カナリト。

『塀猫』と名付けて呼ぶのがよろしい。」と。

又客説キテ之ニ曰ハク、

また、(他の)客が斉奄に説得しようとして言うには、

「維牆こししょういへども雖コナリトレ固レ、維鼠穴うがタバレ之ニ、牆斯チクブル圯バ矣ト。

「塀は堅固であるとしても、鼠が塀に穴をあけたら、塀はそれで崩れる。」

牆いか又ヨんセン如レ鼠何ト。

塀は鼠を防ぐだろうか、いや、防ぎようがない。

即名チツケテ曰ハバ「鼠猫そびようト」可カナリト也ト。

そこで、『鼠猫』と名付けて呼ぶのがよろしい」と。

とくりノじょうじんわらヒテ

ヨ ハク

f 東里丈人嗤レ之曰、

東里の（とある）老人がこれまでの経緯を笑って言うことには、

ああ

フル

ヨ ハもとヨリねこなり

「噫嘻、捕レ鼠者故 猫也。」

「ああ、鼠を捕まえるものは、もともと猫である。」

ハチ ナルのみ

猫即猫耳。

猫はつまり猫に過ぎない。

なんすれぞみづから

ハン

ヨ

ヤト

胡為自 失二本真一哉」。

どうして自らその本質を失うだろうか。いや、本質を失わない（ように、名づけに
こだわらないのがよい）。「と。」